

共育コミュニティは **今** Vol.20 KATSURAGI

共育コミュニティ 学校・家庭・地域のさまざまな立場の大人が、子供たちの豊かな育ちを支え、同時に大人同士も育ち合う取り組みです。

テーマ「子供も大人も共に育ち、育て合う」

今回は、かつらぎ町教育委員会での「子どもの居場所づくり」を紹介します。

「子どもの居場所づくり」「ふれあい塾」について

かつらぎ町では、今年度から県の「子どもの居場所づくり推進事業」を受け、学校から帰っても、一人で過ごさなければならない子供、塾や習い事に行っていない子供、笠田中学校区内の小学1～6年生の子供を対象に、「ふれあい塾」を開設しました。
 <日時:場所>毎週 水曜日 15:00～17:00 笠田東児童館 2F会議室

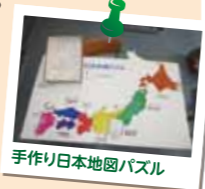


組織的な特徴

「子どもの居場所づくり」を「ふれあい塾」にすべて任せるのではなく、「ふれあい塾」(指導員6人)・行政(教育長・主管課担当者3名・児童厚生員・家庭相談員)・学校(校長・教頭・それぞれの子供の担任)の三者が定期的に会を持ち、子供たちへの支援のあり方について相談しながら進めています。

学習の特徴

- 自己肯定感を大切にしています。
 - ・宿題の支援(「宿題をやったよ。」という達成感)
 - ・手作りの日本地図パズルの活用(「それぞれの都道府県の形や場所は、誰よりもよく知ってるよ。」という自信)
- ・手作りカードを活用した簡単な英会話の練習(「自分たちは、英会話も習ってるんだ。」という充実感)
- ・つまづいているところまで戻って行う学習(九九、十までの数の合成分解、各学年の漢字カードなど手作り教材の活用)



○それぞれの子供の基礎学力の到達度を記す個人ファイルを作成しています。

○家庭への連絡帳を持たせています。(学習した内容・気になったことを連絡しています。)

今後について

初めは緊張していた子供たちも、今では「ただいま～。」と部屋に入り、「今日はねえ。」と学校であった出来事を話し始めます。『ふれあい塾』の名の通り、地域(指導員)の方々とのふれあいを通して、これからも、子供たちの『あったか～い居場所』であるように関係者一同努めていきたいです。

週1回ではありますが、その1回が子供たちの貴重な学びの1回となっています。「ふれあい塾」で完成した宿題は自信をもって提出しています。(小学校担任)

・集中して勉強する時間が増えたね。
 ・恥ずかしがらずに前に出て発表できるようになったね。
 ・字を丁寧に書くようになってきたね。(各指導員)



ふれあい塾のある日は前夜からランドセルを準備し、玄関に置いています。(母親)

きのくに 教育めぐり

教育長挨拶

今回は

橋本市教育委員会



橋本市は、人口約64,500人、和歌山県の北東部に位置し、北は大阪府河内長野市、東は奈良県五條市に隣接しています。

かつては、高野街道と伊勢街道の交差する交通の要衝として栄え、現在は、柿や鶏卵、マッシュルームなどの生産が盛んで、高い技術力を誇る竹製のへら竿やパイル織物にも高い評価を得ており、企業誘致にも熱心に取り組んでいます。

本市では、昨年より新教育委員会制度となり、「人が学びあい、ともに育むまちづくり—自立と共生のまち橋本市—」を理念とした教育大綱を策定し「豊かな心を育みます」「多様な学びと健やかな体を育みます」「地域・家庭・学校の連携を育みます」を重点目標として、共育コミュニティを中心とした地域ぐるみの「学び」に向けた取り組みを進めています。

橋本市教育委員会 教育長 小林 俊治



『いのちを育む授業』

市内全小学校4年生・中学校3年生を対象として『いのちを育む授業』を実施しています。少子化が進む中、子育てをめぐる課題は多々ありますが、橋本市に住むすべての子供たちが

が望まれて生まれ、安心して育つまちづくりをめざし、行政・地域・学校が連携して取り組んでいるのが特徴です。

小学校では、保護者参加を促し、妊娠・出産のエピソードを通じて、自己肯定感の大切さを伝えていきます。中学校では、保護者参加はなく、上記内容に加えて、「いのちを丸ごと引き受ける責任」について説明しています。どちらの授業も、今すぐ成果が表れるものではありませんが、子供たちの幸せな未来に少しでも役立てられることをめざしています。

前畑秀子NHK朝ドラ誘致活動

日本女性初のオリンピック金メダリスト・前畑(兵藤)秀子さんは、橋本市出身で、女性が社会進出した黎明期のシンボルであり、水泳一筋の人生を歩まれました。橋本市教育委員会・橋本市・前畑秀子朝ドラ誘致実行委員会は、前畑さんの生涯をNHK朝の連続テレビ小説(通称:朝ドラ)で取り上げてもらい、2020年東京オリンピック・パラリンピックを盛り立てようと、前畑ゆかりの名古屋市・岐阜市、日本水泳連盟、椋山女学園などと連携しながら朝ドラ誘致活動に努めています。ホームページ(maehatahideko.com)からも朝ドラ誘致署名ができますので、ご協力をお願いします。



展示イベント

いずれも、休館日は月曜日(祝日の場合は翌平日)です。
 ※県立近代美術館、県立博物館、県立紀伊風土記の丘、県立自然博物館は、入館料が必要な施設ですが高校生以下は無料です。
 ※年末年始の休館日等、詳しくは各館のホームページをご覧ください。

県立近代美術館

和歌山市吹上1-4-14 ☎073-436-8690



フィンセント・ファン・ゴッホ《雪原で薪を集める人びと》1884年吉野石膏株式会社蔵(山形美術館に寄託)

特別展「動き出す!絵画—モネ、ゴッホ、ピカソらと大正の若き洋画家たち—」

会期 11月19日(土)～1月15日(日)

和歌山にすごい絵がいっぱいやってくる! 大正時代、西洋の新しい美術を学んだ若い洋画家たちは、自らの表現によって時代を動かそうとしました。その背後にいたのは、知られざる支援者、北山清太郎です。和歌山出身の北山は、雑誌出版や展覧会開催によって、西洋美術熱に湧く若者を支えます。本展では彼らが憧れたモネやルノワール、ゴッホ、ピカソら西洋美術の名品と彼ら自身の表現を、全国約80ヶ所から集めた約170点の作品と約100点の資料で紹介いたします。

県立博物館

和歌山市吹上1-4-14 ☎073-436-8670

企画展 和歌浦・屏風・名所

会期 平成28年12月3日(土)～平成29年1月15日(日)



「和歌浦図屏風(館蔵)」

和歌浦は、万葉の時代から日本を代表する景勝地として知られ、江戸時代には日本三景と肩をならべるような名所でした。そのため和歌浦は、名所絵や真景図といった絵画作品として表現されることも多くありました。この企画展では、江戸時代の和歌浦の風景を描いた屏風の作品を中心に展示します。

県立紀伊風土記の丘

和歌山市岩橋1411 ☎073-471-6123

ミニ展「ジュニア考古学研究応募作品展」

会期 12月23日(金・祝)～1月9日(月・祝)



県内の小・中学生が取り組んだ考古学や歴史に関する研究作品を展示します。遺跡に出かけたり、資料を調べたりした見事な作品をご覧ください。

県立自然博物館

海南市船尾370-1 ☎073-483-1777

企画展 教授を魅了した大地の結晶北川隆司コレクション200選

会期 平成29年1月14日(土)～2月28日(火)

場所 自然博物館レクチャールーム



鉱物専門家の元広島大学教授北川隆司氏が収集した世界の鉱物標本を展示します。様々な色や形など、大地が産んだ不思議な造形をお楽しみください。

県立図書館

和歌山市西高松1-7-38 ☎073-436-9500

児童室展示「冬の本」

会期 12月27日(火)～1月20日(金) 内容 冬に関する児童書の展示・貸出



和歌山県警音楽隊クリスマスコンサート

日時 12月24日(土)18:00～19:30
 場所 県立図書館2階メディア・アート・ホール
 内容 クリスマスソングを中心とした吹奏楽による演奏会